

第28期社会教育委員の会議

第4回定例会

議事録

平成30年12月5日

【1】 開催日時

平成30年12月5日（水）18時30分～20時20分

【2】 開催場所

世田谷区役所第2庁舎3階 教育委員会室

【3】 出席委員

萩原委員（議長）、坂倉委員（副議長）、峯岸委員、神保委員  
森岡委員、村上委員、権田委員、山崎委員、吉岡委員、湯澤委員

【4】 出席職員

教育委員会事務局  
花房生涯学習部長、田村生涯学習・地域学校連携課長  
大井社会教育係課長補佐、御園生社会教育担当係長、橋本社会教育係主任

【5】 傍聴人

無し

【6】 次第

- 1 前回議事録の承認
- 2 意見交換
  - （1）第5回に向けての意見交換
    - ①企画案の検討（プログラム、役割分担等）
    - ②第5回に向けてのスケジュール案について
    - ③その他
  - （2）その他

○議長 ただいまから第28期社会教育委員の会議第4回定例会を開催いたします。

今日は、傍聴人は特にはありませんね。

○事務局 ありません。

○議長 それでは、皆さんのお手元に議事日程が配られているかと思いますが、それに従って進めたいと思います。

まずは前回議事録の承認をしたいと思います。会議資料1をごらんください。第28期社会教育委員の会議第3回定例会議事録（案）ということですね。既に皆様にはお目通しいただいて確認していただいていると思いますけれども、改めて何か修正等ございますか。

○委員 6ページの6行目「今し方説明した」という、これは「今し方」でよろしいのでしょうか。

○議長 先ほど説明したぐらいに変えたほうが……。

○委員 なれない表現だったので、結構です。

○議長 では、これは「先ほど説明した」ということでよろしいですか。

○委員 はい。

○事務局 ホームページでも公開していますので、先ほどのほうがわかりやすいかと思えます。

○議長 では、そのような訂正ということで。何かほかに。

○委員 11ページですが、私は言葉ではこのように言った記憶があるのですが、今おっしゃるように、読んだときに意味がわからない。「学童クラブのパートに大学生が来ています。子どもとのかかわり方もいいですし、キャッチも上手」というのは、その前後に多分言葉をつけ加えているので、ここを書き出してくださったと思いますが、もし読んだときにこれはどういう意味だろうというふうに思われてしまうのであれば、何か言い方を変えたほうがいいのでしょうか。

○議長 どのような。

○委員 ニュアンス的にはもうちょっといい言葉が。

○事務局 子どもの心を捉えるとか、そういうような感じでよろしいですか。

○委員 そうです、そういうことです。

○議長 では、この「キャッチ」というところですね。

○委員 言葉が足りなくて申しわけないです。いいように直していただければと思います。

○議長 子どもの心を捉えるのを強調する。

あとよろしいですか。ないようでしたら、以上の形で訂正するという事で御承認いただけますでしょうか。

( 異議なし )

○議長 ありがとうございます。

それでは、この会議の終了後、山崎委員と、権田委員に署名をしていただきますようお願いいたします。

あわせて今回の議事録の署名については、吉岡委員と湯澤委員をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

それでは、次第に沿って、次の意見交換のほうに進めたいと思います。

本日の議題は、第5回についての意見交換がメインになります。

前回も確認しましたように、今日、この1回のみでシンポジウムないしワークショップなり、講演会なりの中身の大枠は決めなければいけません。短時間の中で集中しての御議論をいただくことになろうかと思いますが、どうぞ御協力のほどお願いします。

それでは、企画案の検討に移る前に、日程を調整したいと思います。皆様には事前に事務局から日程についてアンケートがあったかと思いますが、それを集計しましたところ、このような形で5つの候補がでています。5つの候補は、我々10名の委員構成の中で、いずれも8名参加可能ということです。

ここで、8名の内訳も加味して考えたいのですが、今後の企画の内容にもかかわってくるかと思いますが、副議長が参加可能なのが、この中で2月24日のみになります。副議長は場のデザイン、コミュニティーデザインを専門にされていて、ワークショップ等にたけている方なので、今回の企画の内容に関してはできれば副議長に力をかしていただくのがよろしいのではないかと、私と事務局で話しているところです。

そのような基準でもって、2月24日というのでいかがでしょうか。

○委員 午前中は多分だめかもしれないですが、午後であれば調整をして。

○議長 もしかしたら三角というところ。

○委員 三角で。

○議長 委員も、たしか2月24日は三角ですよ。

○委員 三角なので、そこに決まるというのであれば調整します。

○議長 時間に関しても、午後のほうがゆったりと時間がとれるのではないか。また午前中を準備に当てられるということもありますので、24日の午後ということはいかがでしょ

うか。

( 異議なし )

○議長 ありがとうございます。

では、続きまして、企画案の検討に移りたいと思います。お手元の会議資料2、企画シート案、これは事前に送らせていただいたものを少し見やすくしたものです。

○事務局 表の形を変えただけで、中身は同じものです。

○議長 この企画案というのは、あくまでたたき台です。何の手がかりもなく、今日のこの限られた時間で議論するのは厳しいだろうということで、私と事務局のほうで案をつくりまして、事前に送らせていただきました。今のところ、特に事前に御意見をいただいている状況ではありませんが、このたたき台を中心にしながら、基本的に全く別のものが出てくることはないだろうという前提で進めさせていただければと思います。

この目的、タイトル、対象、そして中身のプログラムを改めて確認したいのですが、まず、今回の目的としては3つの柱ですね。地域で子ども・若者に関わる団体や個人に「関係性の貧困」をめぐる課題について理解をしていただく。広く区民の方々に周知し、問題共有をしていただくというのが1つ。そして、2番目として特に子ども・若者にかかわる団体、個人の方々も横につながっていくきっかけになったらいいかなということと、3つ目としては、この企画を通じて、区民の方々のさまざまな角度からの御意見を拾って、今後の施策化の議論の素材につなげていきたい、これが大きな柱になっています。

タイトルは、またここは少し議論する余地はあるかもしれません。

対象も、地域で子ども・若者にかかわる団体、個人、そして関心のある方も含むと書いてありますが、前回の委員会の中で、無作為抽出でいろんな方にランダムに声をかけて来ていただくのも一案ではないかということが出ました。ですので、対象は、また御意見をいただければいいかなと思います。また、若い世代にも声をかけたらいいのではないかとという声もありました。対象として、広くいろんな区民に声をかけよう、もう1つは、若い世代にも声をかけてみよう、もう1つは、子ども・若者に普段からかかわっている団体、個人に声をかけていこう、この3つのカテゴリーでの対象を決める必要があると思います。

そして、プログラムですけれども、基調講演は、前27期での議論を踏まえながら、今期での問題提起。第2部はワークショップの形で、ここに参加された方、お集まりの方々全員に参加していただいて、子どもの関係性の貧困をめぐる皆様の御意見、お考えをさまざま聞かせていただく。第3部は、お互いの交流会、交流とネットワークづくりの時間

としています。時間配分は、ワークショップに厚めに時間をとるような構成にしています。

そんなところなので、どこからでも皆様から御意見をいただければと思います。

○委員 この企画シート案の対象となる方たちですが、最終的には出欠を得るのでしょうか。ワークショップも、既にかかわっている人たちだけというのも重くなるような気もするし、若者たちだけというのも無理があるかもしれないし、興味はあるけれども、全くかかわってこなかった人たちだけというのも話がうまくいかないとなると、人数を把握しておいて、事前に振り分けるということであれば、出欠の意思表示があったほうがいい。

○議長 そうですね、グループ分けするにしてもバランスよくするために、事前に把握しておく必要が出てくると思います。

○委員 先日のSDGsの教育推進会議のときには、事前に名簿ができておまして、そのグループの中には先生、区民代表とか、それぞれの立場の方が入ったということです。チラシ案には先着100名（申込不要）とはなっていますけれども、ワークショップをやるといふことになると、来た順に振り分けると偏りが出てくるので、事前に申し込むような形に。そうすれば当日の人数も把握できるのではないかなと思います。もし広い会場であれば、基調講演を聞きたいという方はプラスアルファで、当日御参加もいただけますということでも可能とは思いますが。

○議長 若い世代、そして子ども・若者にかかわってきた大人、団体、個人、そして無作為抽出のこの3者に対してバランスよく声をかけようということについては、皆さん、特に御異議はないということでしょうか。何かほかに意見は。

○委員 目的の3つの項目の対象は、これもまだ決定ではないけれども、あくまでも関係団体、関係個人ですよね。今の議論が無作為に抽出した区民や若い人たちをプラスすると、ゴールも変わってくるのかなという感じもする。前回の議長のお話の中で、広く区民の方々に貧困をめぐって御意見を聞くことと、関係している経験者に課題や方策を聞くという2つの目的があるけれども、どちらに重きを置くかということのはっきりさせなきゃいけないという御意見があり、それは大事なことだと思います。無作為抽出でお呼びすることはいいけれども、それによってゴールや目的がわかりにくくなるというリスクがある。どちらかに重きを置いてやったほうが当初の目的は達せられるかなという気もするが。

というのは、私もSDGsの会議に出ましたが、あのSDGsというのはゴール、目的がはっきりしていない。一般に、SDGsを啓発するという意味があって、あんな形にしたと思うので、今回の場合にはそれとは違うのかと。

○議長 今回の目的の中には、この委員会の中で積み重ねてきたことを広く区民にも知っていただく必要があるであろうということ。それと同時に、区民から施策化に向けてのさまざまな声を聞き取りたいということが大きくねらいとしてあります。参加者相互のつながる機会にしたいのは、できればというところなので、柱の中心は大きく2つになるかと思います。広く区民にこの問題について知ってもらって、一緒に考えていただきたいところを、無作為抽出も含めて広くスタンスをとるか、それとももう少し当事者に近いところにかかわっている大人、若い世代に絞り込むかというところになりますが、そこは皆さんで決めなければいけないと思います。

○副議長 この規模でよくやる考え方ですけれども、要はこのテーマについて誰と議論したいのかということを決める。そして、あの人は絶対入ってほしいという人がいると思うので、50人ぐらいは声をかけて来てもらうということをやります。オープンにしているけれども、広報、チラシだけに頼るのではなく、来てほしい人にはあらかじめ声をかける。あの人とこのテーマを話したいという人が、各委員の中で思いつく人が少なくとも5人とかはいるはずで、そうすると、全部合わせるともう50人ですよ。50人ぐらいは声をかけて、直接アクセスできない人に対してはチラシをつくって声をかける。このテーマですから、申し込みが必要だということになると、本当に関心のある人が来てくれると思います。そうすると、そこで新しい出会いが生まれて、知っている人だけでは起こり得ないアイデアが生まれたりすると思っています。逆にどんな人と議論したいというイメージをすり合わせると、イメージが合ってくると思います。

○委員 子ども食堂をやっている方とかですかね。普段から子どもたちにかかわっているという意味では、青少年委員が小学校も中学校もかかわっていて、多くのお子さんや学校を見ているので、青少年委員の中から何名か御参加いただければ、現在の世田谷区の子どもの様子というのが聞き取れるのではないかと考えます。

○議長 具体的に出していただけると、イメージが膨らんでくるかもしれないですね。いかがでしょう、皆さんがもしお声かけするとしたら、どんな方々になりますか。

○委員 主任児童委員は、よく御存じなのではないかなというふうに思います。

○委員 子ども食堂の開始の早い児童館の方は、回数をこなして見えてくるものがあるのかなという気はします。あとは医療の現場の方ですね。小児科、産科、産婦人科、歯医者とか、比較的若年層からかかわっている医者のほうがよりいい。

○委員 歯医者さんで言うならば、一般の歯医者さんよりは、学校で子どもたちの健診を

やっているような歯医者さんでしたら話が見えてくるのかなという気がします。

○委員 この前、ある子ども食堂にお邪魔して、どんなふうなのか見せてもらったが、和気あいあいとした雰囲気、これが地域の力だなと感じました。これは食を通じたいろんな意味のコミュニケーション、関係性だと思いつつも、実際にやっている方はいろんな問題点とか課題が見えていると思います。そういう実際にかかわっている方をお呼びして話をすれば非常に話は弾むと思います。

先ほど言ったように、非常に問題点、課題を持っておられる方と、漫然と、でも、子どもに関心がある方と、あるいは初めてという方と混ぜて、考えながらやることも意義はある感じはします。かかわり方によって出てくる意見もかなり温度差がある。それがまたおもしろいのかなという感じもします。

○議長 そこはワークショップの方法に結構工夫が必要になってきますよね。当事者に近いところで関心を強く持っていらっしゃる方とちょっと来てみたという方とでは、理解力や切実度とかいろいろ違うところがある中で、一緒のグループでできる限りフラットに話をしていただけるように工夫する必要は出てくると思います。もしワークショップでグループに分かれてやる場合は、ファシリテートは当然我々がやることになると思いますので、そういうことも加味して、どうしたらできるかなということを念頭に置きながらお話しただければと思います。

○副議長 青少年委員、主任児童委員、児童館という立場の方が出てきましたが、その中でもあの人というのはいませんか。要は、誰でもその立場の人だったらいいということでもないと思います。

(具体的な参加者について検討)

○委員 私は個人名を言うよりも、それぞれその中で決めていただいて出ていただくほうがいいと思います。

○副議長 一本釣りというよりは。

○委員 いいと思います。声がかかった、かからないとなるよりは、青少年委員からも出ていただきたいという依頼をして、都合のいい方、関心のある方で調整をしていただくのがいいのではないのでしょうか。

○事務局 議長、よろしいでしょうか。2月24日の日曜日の午後ということで、場所は第3庁舎のブライツホールです。教室型で定員84名ということになりますので、グループワークとかワークショップになると……。



○議長 少なくなりますね。

○事務局 消防法等々のこともあるので、プラスアルファどのぐらい入れられるかというところですが、基本は84名で締め切ることになります。

○議長 我々委員やスタッフ、事務局も含めると、もうそれだけでも十四、五人いきますよね。だから、84から14引いたって70。でも、70でもグループワークの体系をとろうとするとマイナス10ですかね、60。定員が60ということですかね。

○委員 学校の先生で、こういうことに興味関心がおありの方は、依頼という形ではなくて自発的に御参加いただくのはいいのではないかと思います。

○議長 そうですよね。やっぱり個人という形で参加いただかないと、グループワークで自由に言いにくい。その背景としては、組織の一員として参加となると、それを気にして話さざるを得なくなってくる。できればそういうのは外した形のほうがいいとは思いますが、その辺はいかがでしょうか。

○委員 参加できる人は世田谷区在住の人ですか、それとも勤務先が世田谷区の人も含むのか。世田谷の施策の参考とするところがあるので、そこはどうなりますか。

○事務局 基本は在住、在勤、在学となります。

○委員 在住、在勤、在学のどれかでいいという感じですか。

○事務局 はい。お住まいは違っても、世田谷区の大学に通っている学生や、お住まいはよその区市であっても、世田谷区に勤務場所があるとか。

○委員 学校の教員に対して誰か関心がある人、どうぞと言った場合に、関心はあっても出られないのではないかな。休みの日に出すのもかなり至難のわざだと思えます。

○委員 ちょうど都立の入試ですよ。微妙な時期にあるなというのは正直なところありますね。

○委員 たまたま区報やチラシを見た方が参加するのはだめではないというレベルでいいと思いますが。

○副議長 今回の企画は、地域でこの人を押さえておこなきゃいけないというものではないので、動員をかけるとおかしなことになる。個人の立場で関心があって来たいという人ができるだけたくさん集まるといいかなと思いますね。

○事務局 こちらでも、今、団体名や個人名が挙がっていない方たちも幾つかピックアップをさせていただきます。それから関係機関、例えば児童館、図書館、まちづくりセンターにもチラシを置かせていただきます。それ以外に、後でこんな人がいたということで、

事務局のほうに御連絡いただくか、チラシができ上がった段階で、皆様方からお渡ししていただいて決まりましたら御連絡いただく、そういう形でもいいと思っています。

○委員 お願いできるのであれば、各地区委員会が開催されると思いますが、そこで御案内していただくというのは。

○事務局 タイミングが合えばそのようにさせていただきます。

○委員 そうですね。ここにありますから御自由にどうぞだと、なかなかお持ちにならないとは思いますが。

○議長 町田市は、高齢者福祉のほうから若者のひきこもりが結構発見されたということがあって、そこから若者のひきこもり支援が始まっている。ひとり暮らしの高齢者を見守りに行ったら、部屋の奥に息子や孫がいたというので、意外と他世代のところから入るというのも1つとは思いますが。子ども・若者だけではなくて、意外なところとつながる可能性があるのでは。

あと、もし無作為抽出も行うとなると、例えばどんな方法が。

○事務局 関係機関にチラシを置かせていただいて、チラシを見て参加されるというような形になるかと思っています。こちらから無作為で通知を出すような形は難しいです。

○議長 そういう無作為抽出という方法について、副議長は何かございますか。

○副議長 やってもおもしろいとは思いますが、年齢、性別、地域とかで、どうマイニングできるか。港区では、まちづくりの講座は定員500名で、30代、40代、50代の男女半々に郵送で送って、何人か返ってくるということがあって、それは掲示板の掲示や、チラシを置いても絶対に届かない層の人たちなので、結構広がりが出ていますが、この規模ですから、規模感が合わないのかもしれないですけども。今回はそこまでやらなくてもいいのかなとは思いますが。

○議長 あとは、区のほうでは図書館、まちづくりセンターとか、各公共施設にというお話もありましたけれども、我々からも一見すると関係ないところに周知してみる。青少年に余りカテゴライズされないようなところに声をかけてみたり、チラシを置かせてもらったりというのも1つかもしれませんね。そうすると、広く区民に知っていただくには、今回、今のような各公共施設を通じてですかね。

○事務局 はい。

○委員 あとは町会ですかね。

○議長 町会ですか。

○委員 各町会にお知らせを流して、関心のある方がそのチラシを手にするという形ですかね。

○委員 ファシリテーターを我々がやらなきゃいけないとしたら、ファシリテーターの役割が結構重要になってくると思います。

○議長 我々が声をかけてうまくコントロールできるかということですね。結局、それぞれ日程が合うかどうかにもかかわってきて。

○委員 そういう意図をしながら推薦するという意味で。

○議長 わかりました。

○委員 この若い人というのは、当事者で困った経験をしているということではなく、サポート側のイメージなのかな。

○委員 困った経験がある方であっても、自分の体験をもとにお話ししていただけるのであれば。例えば大学生で、実は自分が中学生のころにこういう経験をしてきたと。大人の目から見た話しかできないので、もし本当にそういう方が手を挙げて来てくだされば、話の展開は変わってくるし、全部のグループが同じことにならないほうが、このグループにはこういうメンバーがいて、こんな話が出ましたって、違うほうがいいのではないかなと考えます。そのメンバーも、参加者が決まった段階で、割り振りをして、そこにふさわしい先生がファシリテーターで入るなりお決めいただければいいのかなと思いますが、いかがでしょうか。

○議長 グループのメンバー構成は配慮するというをここでは合意しておいて、あとはどういう方が集まれそうか。あと時間配分も見ておく必要があると思うんですが。

○委員 最初の報告はどなたがしてくださるのですか。

○委員 やはり議長ですよ。

○議長 これまで3期にわたって、収斂しているところがありますので、その辺の話をしようかと。専門家から見た子どもの貧困一般の議論というよりも、世田谷区ではどういう議論をしてきたか、どういうふうに私たちは認識してきたかということを皆さんにお伝えして、その上で、それをベースにしながらワークショップという形を、事務局とはたたき台として考えたというところなんです。だから、基調講演は30分ぐらいでいいかなと思います。ワークショップを90分。

○委員 ワークショップは模造紙にまとめたものを書かれているのですが、初めましての人たちでワークショップを進めていくというのは事前に打ち合わせがないと難しいの

で、ふせんに1人1人御意見を出してもらおうとかでないとなかなか難しいかなとは思いますが。

○議長 そうでしょうね。いきなり御意見をというのは難しいでしょうから、まずは各自でワークできる時間を確保して、あと簡単な自己紹介できる時間も加味して、ゆとりを持った時間配分のほうがいいかなと思います。

○委員 発表までも含めての90分ですか。

○議長 そうですね。

○委員 全部のグループが発表しますか。

○議長 6人1組のグループが60人だと、最大10グループですよ。

○委員 2分で。

○議長 2分だけで20分。

○委員 90分だと、20分引くと70分。70分あればいいんじゃないですか。

○議長 最低でもそれぐらいあれば大丈夫というところですかね。あと、一応懇親会もその後1時間程度用意してありますけれども、どうでしょうか。これはちょっと欲張っているとこがあるって、せっかくここに集まるのであれば、第三の大人のネットワークづくりではないですけども、それを1つのきっかけとして、いろんな近接領域の方々にお集まりいただいて、お互いに知り合うというのが目的ですね。子どもの貧困ということを切り口にしながら、何を思っているのかということを知り合う。

○委員 これはワークショップのグループは解体してやるというイメージですか。

○議長 個人的には、もう崩してもいいと思います。盛りだくさんな感じもなくはないですけども。

○委員 発表後に、もう少し話したい方がいらっしゃればというところかなとは思いますが。そうしたら、60分終わった後に閉会というのは長いかな。そこに話しに行かない人たちもいらっしゃるかもしれないので。

○委員 懇親会だから、自由参加なわけですよ。

○議長 懇親会という形にすれば、そうなるでしょうね。この間の若者支援シンポジウムの場合は、もう先に団体紹介を第1部でやっていました。第1部で26団体、しかも事前にパネルまで用意されていました。パンフレットも置いて、各2分ぐらいずつ紹介してから、ワークショップに入っていった。

○委員 でも、これは個人で参加ですよ。団体の交流というのはないのかと。

○委員 できればこのネットワークづくりが本当は目的ですよ。でも、それがこのプロ

セスでできるかどうか。

○委員 よほどしつらえていかないといけないかな。三々五々、ああ、終わったなで帰っちゃう可能性もある。

○議長 ワークショップの前に、20分ぐらい自己紹介できる時間を確保するとか。

○副議長 このワークショップで何を話すのかという設定が大事だと思います。まず、みんなが思っていることを全体で共有していくということであれば、多分模造紙発表システムじゃなくて、メンバーを変えながら話をしていって、全体の思いを共有していくみたいなのもあり得るし、逆に特定の課題についてアイデアを出したいということであれば、明確に問いを立てて、この問いに対して話し合いたい人が集まって、解決策を考えて、それを発表してもらおう。それが1テーマ2チームとかできたら、5個の課題についてのアイデアが出ます。そうすると、一緒のテーブルにいた人というのは、関心が重なっているので自然に交流ができますし、そういうやり方もあると思いますね。

あと、特定の活動をしている人を応援することでいえば、あらかじめ4～5人に、やっていることや問題意識を発表してもらって、応援したい人がそのグループに行って、こうしたほうがいいというような話をするやり方もあり得て、そうすると、既に萌芽的に起こっている団体とか個人のやりたいことをみんなで後押しするような形になるので、これもまたネットワークが自然にできていくような形になると思います。いずれにしても、ワークショップで何をどう話すか、設計を先に考えたほうが、その後の交流の仕方も明確に見えやすいのかなと思いました。

○議長 たたき台では、この基調報告をもとに、関係性の貧困への問題意識や課題の共有と整理をした上で、日常の生活空間の中で個々が孤立しないためにどうしたら関係性を豊かにできるのか。関係性の貧困ということと逆に、関係性を豊かにするにはどうしたらいいか、という問いを立てています。それについても皆さんの御意見があれば。

○委員 基調講演の後に二、三の実践事例があつて、その発表があると、ワークショップに入りやすい。テーマが絞られてくる。

○議長 当初、事務局とではリレートークを入れる案もあつて、実践事例で、何人かに登壇いただいて話していただくと、確かに具体的なイメージがつくかもしれませんね。

○副議長 この最初のお話はインプットの部分なので、全体的な課題共有もあつたほうがいいと思いますし、具体的な取り組みがあつたほうが話しやすいというのはそのとおりだと思います。事例も区内の実践というのが素直な案ですけれども、区内に限らず、世界中

から参考になりそうな事例を持ってくるのもあると思いますね。

○委員 この間の教育推進会議のときは、どこか違う国の幼児教育のもを見せていただいて……。

○事務局 イタリアですね。レッジョ・エミリアですね。

○委員 そう、レッジョ・エミリアの話でした。何で世田谷区にと思って聞いていましたけれども、そういうのもありなのかなと。

○議長 そうですね。今後、参加者の声を参考に施策化につなげるということなので、できれば具体的な方策、アイデアを皆さんから募りたいということがあるわけですね。実態を把握すると同時に、できればその先も。参加者によってはもう実態を理解するだけで精一杯とだとは思いますが、既に実践されている方にとってはその先の部分もお話しいただいて、各グループでふせんに書いていただく形にしてとにかく残して、そこからこの会議でも抽出しながら施策化に向けた提言をまとめていく、そんなイメージを事務局とは話していたところではあります。

もし皆様のほうで御依存がなければ、基調報告の後に、二、三事例報告やリレートークを入れる。

この中身を1日で詰めるというのが難しい。2月24日の前に、今年は会議をプラス1として、1年6回の会議という形にさせていただければ、もう少し詰められるかなと思いますが、いかがでしょうか。

○委員 我々がファシリテーターになるとしても、打ち合わせは必要ですよ。

○委員 できれば模擬ワークショップをやるぐらいのリハーサルをしないといけないですよ。

○副議長 これは、いろんな意見を出してもらって、来年度の報告書にまとめていくのですよね。

○議長 そうです。

○副議長 伝えればいいわけじゃなくて、集めた人から引き出さないといけない。

○議長 我々限られた人数の委員だけで議論しているようなレベルではないという、ところまで来ているので、多様な方々に参加いただくというのは必要なことなので、目的のところは「地域で子ども・若者に関わる団体や個人」という文言にしてありますけれども、ここは広く区民に対してということでもいいと思うのですが、いかがでしょうか。そういう意味では、対象も地域で子ども・若者にかかわる団体、個人というふうに限定しないで、そ

れにプラス、若い人たちや広く一般の区民の方々も含めてというふうに対象もプラスアルファにすると。プログラムも、ここはもう要検討なところがまだ幾つかあるので、これはできましたら1月か2月初旬にはもう1度お集まりいただいて進めると。

○副議長 そう考えるとシンポジウムではないですよ。

○議長 ないですね。シンポジウムというタイトルもそもそもそうじゃないですよ。そういうところも1月ぐらいまでに、たたき台を少し詰めていきたいと思います。

○事務局 チラシをいつ作成するかというのにかかわってきます。詳細は例えば第5回目でもいいのですが、チラシをいつ配るか、いつ締め切るかにもよります。

○議長 日にちは決まった、定員も決まった、あとはプログラムですね。プログラムの概略は決めたいし、タイトルも。

○委員 難しいという印象を受けてしまいませんか。ここに参加して自分が考えを述べるというのは、一般区民にはハードルが高くないですかね。

○議長 この文言について何かいいアイデアはございませんか。

○委員 みんなで考えようとか。シンポジウムではまずいですか。

○副議長 来る方にとってシンポジウムと書かれていたほうが安心であれば、戦略的に使うことも大事だと思います。ただ、内容的に言うと、これを聞かせてあげるというよりも、みんなで集まっているいろんなアイデアをつくりたいと。合っていても間違っているでもいいから、みんなで解決策を考えるのを一緒にやりませんかという内容だと思うので、それが伝わるようになっていたほうがいい。

○事務局 通常、講座を行うときに、募集期間は2週間から3週間です。例えば2月24日から大体1週間から2週間ぐらいあけて締め切りをしたい。仮に2月15日締め切りですと、1月末にチラシができ上がってれば……。

○委員 もっと早いほうがいいと思います。

○事務局 ということは、その前に1回会議ができるかどうか。本来は皆で集まって決めたほうがいいですが、それが難しいということであれば、議長、副議長と事務局でやらせていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

○委員 期間からいって、そのほうがいいのかもしいです。

○委員 懇親会と全体の時間がまだですね。

○議長 全体の時間は、3時間になっています。始まりと終りは決めないとチラシに載せられないので、内訳をどうするかは後で詰めるにしても、3時間は確保しておく。

懇親会は、団体紹介的な交流会ではないので、どちらかというともう自由参加ですね。

○委員 一般の人のイメージだったら、茶話会的な部分で、振り返りをしながら感想を述べ合うのが懇親会ですがそういうわけではないですね。

○事務局 それはどう考えるかですので、オプションで、参加する方は1人500円持ってきてくださいと明記するかどうか。

○議長 懇親会は正規のプログラムに組み込むか組み込まないのかですね。

○委員 その場合は、懇親会に参加するかしないかというのは丸をつけて、懇親会に参加する方は幾らですということを明記して申し込みをしてもらわないと数がわからないので、そういうふうにはいかがでしょうか。

○議長 そこと日程を決めてお開きにしたいと思います。

○副議長 60分は長いですね。そんなになくてもいいのでは。

○委員 余りお金は取らないほうがいいのでは。

○委員 取らないほうがいいと思いますね。来た人たちとざっくばらんに話しましょうというのもプログラムに載せたほうがいい。

○議長 では、チラシの団体交流の団体は取って懇親会にして、懇親会は組み込む。

○委員 時間も30分でいいですよ、余り長いと。

○議長 そうですね。基調報告、リレートーク、ワークショップ、懇親会、4部構成ということですね。タイトルについては、例えば子どもの貧困についてみんなで語り合おうとか、子どもの貧困の解決に向けてみんなで語り合おうとか事務局と整理して、チラシはもう年内には完成させて配付を始める、その流れでよろしいでしょうか。

( 異議なし )

○議長 では、皆様の御予定をお伺いして、もう1回集まれるかお聞きします。

○委員 例えば2月12日、13日ですとほぼ参加者の人数がわかった上で話ができる。リハーサルなので、10日前ぐらいに行えば、メリットはあると思います。

○議長 それでは、2月12日にいたしましょう。

○委員 あと、チラシができましたら、私たちの手元にもいただけるようお願いしたいと思います。

○事務局 もちろんです。議長、副議長と事務局のほうでたたき台をつくって、最終的には皆さんに見ていただいて、完成版という形にしようと思っています。

○委員 完成できるのはいつぐらいになりますか。



○事務局 年内にできればと考えています。

○事務局 抽選なので、先行してお配りしても、そんなに問題はないかと思います。

○議長 では、議題は以上ですが、事務局からは何かございますか。

○事務局 では、1点だけ、参考資料3、第40回新年子どもまつりのチラシを参考につけさせていただいております。もしお時間が合えば来ていただければと思いますのでよろしく願いいたします。

○事務局 それから「社会教育」という月刊誌がございまして、そこに投稿されています萩原議長の記事をあわせて御参考までにつけさせていただいておりますので、ぜひ目を通していただければと思いますので、よろしく願いいたします。

○議長 あと、11月に行われた若者支援シンポジウムの基調講演で私がつくったレジュメをコピーしました。これはこの会議の議論を整理したものなので、今度の2月のシンポジウムにも重なってくると思いますので、お目通しいただいて、また次回の会議で内容を詰めるときの御参考にさせていただければと思います。

では、これでお開きにしたいと思います。どうもありがとうございました。